



「蟬の小便」作戦と外国メディアは嘲笑的に報じたが、せっぱ詰まった状況下で他に方法がなく、高濃度の放射線量に汚染されている上空へ飛び込んでいかなければ放水投下できない苦渋の決断であり、それによってやっと小康を得たのだから、外国のメディアが報じると、それに便乗して早速、国内でも報じた、無責任な野次馬は何処にでも居るのだ。

(蟬の小便、とは、欧米では何の役にも立たない、という意味がある。)

続いて、陸上から警視庁機動隊、デモ鎮圧用の高圧放水車、自衛隊の消防車が放水を開始した。しかし高圧放水車はデモ用なので、上方へ向けての放水には適さなかった。

18日 三自衛隊 消防車計6台、計40トン放水、米軍消防車貸与操縦は関電工職員2トン放水した。